

# 令和6年度（2024年度）第1回函館市地域支え合い推進協議体 会 議 概 要

## 1 日 時

令和6年（2024年）11月14日（木） 14：00～15：10

## 2 場 所

函館市役所8階 第1会議室

## 3 議 事

（1）開 会

（2）委員紹介

（3）会長・副会長の選出

（4）報 告

函館市生活支援体制整備事業

第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告

（5）その他

（6）閉 会

## 4 配布資料

・ 会議次第

・ 座席表

・ 別紙1「函館市生活支援体制整備事業

第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告」

・ 別紙2「第1層生活支援コーディネーター活動報告

（令和5年度・令和6年度上半期）」

・ 函館市生活支援コーディネーター活動便り

## 5 出席委員（6名）

池田委員，齊藤委員，常野委員，中村委員，能川委員，林委員

## 6 傍 聴

1名

## 7 報道機関

なし

## 8 事務局（函館市保健福祉部地域包括ケア推進課）

横山課長，辻屋主査，石黒主任

## 9 会議要旨

### (1) 開 会

### (2) 委員紹介

### (3) 会長・副会長の選出

#### 事務局

会長・副会長の選出については、「函館市生活支援体制整備事業実施要綱」第4条に委員の互選により定めると規定しているが、いかがか。

<「事務局一任」の声>

#### 事務局

事務局としては、会長を池田委員に、副会長を常野委員にお願いしたいと考えるが、いかがか。

<異議なし>

#### 事務局

異議なしの声があったため、会長は池田委員、副会長は常野委員に決定する。

### (4) 報 告

函館市生活支援体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告

#### 池田会長

それでは、「函館市生活体制整備事業 第1層生活支援コーディネーター業務に係る活動報告」について、第1層生活支援コーディネーターの齊藤委員から説明をお願いしたい。

#### 齊藤委員

(別紙1・別紙2に基づき、令和5年度および令和6年度上半期の活動報告)

- ・「みんな de 学生服リユースプロジェクト」は、新たな取り組みであり、卒業などで不用となった制服を寄付してもらい、再利用するためにデ

イサービス利用の高齢者にネーム刺繍の取外しや洗濯を手伝ってもらおう。まずは本通中学校で実施する。

- ・七夕スタンプラリーは、多くの事業所から新型コロナウイルス感染症の影響で町会との関わりが激減したため、再開したいとの要望があったことから、中道第二町会やハセガワストア中道店、サツドラ函館中道店、西堀病院、小規模多機能ホームのべる手の協力を得て実施した。高齢者には、色塗りやシール貼り、菓子の配布等を行ってもらった。

#### 池田会長

ただ今の説明について、能川委員いかがか。

#### 能川委員

ボランティア協議会での悩みに「周知・集約の方法」がある。協議会の役員は10人で、ほとんどが70～80代のため、ボランティア活動は紙ベースが主体となっている状況で、若い人にはなじみが薄くなっている。その辺りの取組みはどうなっているのか。

#### 齊藤委員

高齢の方と若い方では馴染みがあるものが違う。高齢者とは対話を重ねることでネットワークがつながるだけでなく、様々な意見が挙がるのでそれらを集約していく。看護学生等の若い方は、携帯の方が馴染んでるので、QRコードを用いたアンケート調査で全体的なニーズを把握し、集約していく。周知についても、今の学生はSNSなど電子化されているので、対応を変えている。常野委員も地域包括支援センター亀田で町会と取組まれていたかと思う。

#### 常野委員

第2層協議体でも同様の課題があり、話し合いの結果、紙とSNSの両方でやることとなった。その後、公立はこだて未来大学の学生が町会役員にインスタグラムの使い方などを教える場を設け、現在、町会はインスタグラムで周知と発信をしている。さらに後日、パソコンが得意な地域の高齢者から町会のホームページ作成の申出があり、あっという間に町会にホームページができた。その時に、ハイブリッドのような形でいろいろな方に知ってもらい、広がっていくことが大事だと感じた。

## 池田会長

---

シルバー人材センターの立場として、林委員はいかがか。

## 林委員

---

シルバー人材センターでもデジタル化が進み、現在762名が会員登録しているが、仕事の依頼を全てスマホやパソコンで見られるよう、8月26日にIDを配ったところ、400名以上の登録があった。登録については自分でできない会員が多く、当センター事務局や家族等の助けが必要ではあったが、いざ見られる状況になると全く関心のなかった会員も見erようになった。SNSの利用方法を教える場を作ることで、当センターでは年齢の高い会員から興味を持ってくれた。自分だけができないのではなく、皆ができないところからできるようになることを共有する時間を作ることも楽しみとなるようだ。

## 池田会長

---

地域の困りごととして、以前は買い物や雪かきが挙げられていた。雪も多くなってきており、将来的な課題として雪かきなどが出てくると思う。隣近所みんなで助け合うという形になるかどうか。

中村委員、町内会ではどうなっているのか。

## 中村委員

---

何年か前から、市から希望する町会に除雪機を貸出しているが、メンテナンスや管理等を行える人がいない場合や雪の季節以外に格納する倉庫等がない町会では、利用できていない。

私のいる町会は国道や道道があるので、除雪車が頻繁に入り、あまり心配はないが、歩道などの除雪に役立っている。雪かきは町会の役員が行うが、除雪機については専門にやってくれる人がいる。ただ、坂の上まではボランティアが入らないので、札幌市のようにはいかない。

## 池田会長

---

まだ下半期が残っているが、やり残した課題などはあるか。

## 齊藤委員

---

今年、突貫工事で七夕スタンプラリーを行ったが、七夕が函館市の特徴ある行事であり、第1層が市全域を担当していることから、高齢者と

上手く繋いで、全市で七夕を盛り上げられないか、企業などを巻き込みたいと考えている。何か良い知恵や企業について助言いただきたい。

#### 中村委員

---

今年、私の町会では西高の生徒から七夕の手伝いをしたいとの申出があった。市役所の方が働きかけてくれ、函館どつく株式会社も応援してくれることになった。町会は笹や七夕飾りを用意し、函館どつく株式会社が水ヨーヨーや菓子類を用意してくれた。当日は日曜日だったこともあり、多くの人 came たので大変助けられた。今回は休日で、西高の生徒や企業との交流を持つことができたが、来年は平日なので、今年のように応援してもらうのは難しいと思う。

#### 能川委員

---

ボランティア協議会では、かなり以前から引きこもりの課題を抱えており、何年か前からは認知症の対応への悩みが出てきた。

自分の周辺では認知症を予防する取組みを考えた方がよいとの意見がある一方で、認知症になっても、皆で住み続けられるまちづくりが大事との意見もある。どのようにしたら、認知症の方がまちの中で暮らしていけるのか、私自身の大きな課題になっているので、皆さんから意見をいただきたい。

#### 常野委員

---

認知症の方の支援や見守りに関して言えば、「ちょっと見守りプロジェクト」はとて面白いと思う。実際、第2層の中でも認知症の方がいて、「若い人がちょっと声をかけてくれるだけでいいので誰かいなか」と相談されるので、この見守りプロジェクトを利用してみたいと思っていた。そこで、このプロジェクトについて2つ質問がある。

まず、このプロジェクトを継続していくために、ボランティアをずっと育成し続ける必要があると思うが、第1層だけでは難しいのではないかと。世代交代についてもどのように考えているのか。

また、プロジェクトに参加してくれる学生をもっと増やすと、よりマッチングができると思うので、そこをどう考えているのか。

#### 齊藤委員

---

認知症であっても軽度であれば、誰かと、特に学生のような若い人に

関わることで、交流が生まれるので活気も生まれる。行事等の年1回だけの関わりであれば、どの地域でも行われているが、その関わりを継続的にすることが大事だと思う。

また、手を挙げてくれる学生をどのように増やすかだが、今、看護学生からの希望は増加しており、対象をどうしていくのかという問題はあ  
る。そのほかにも専門学校や大学があるので、どのように広げていくか  
は手立てがあると思っている。そして、これを継続し、ボランティアを  
養成していくこと、登録者の世代交代についてだが、看護学校では対象  
者の担当である2年生に1年生が付いていき、引継が行われていく。講  
座に関しても整理をしていき、学校や町会に任せられないか、一通り実  
施すればビデオ等を用いた様々な形でできるので、グループワークで意  
見を引き出す時にのみ出向くなどして広めていけないか考えている。何  
かいい方法があれば教えてほしい。

#### 常野委員

第2層を巻き込むのも一つの方法かと思う。

#### 中村委員

認知症の自覚がない本人に対し、町会がどのように対応すればよいか  
難しく、またボランティアへのノウハウもないため、厳しいのではない  
か。

#### 池田会長

活動報告を聞き、非常に頑張っており成果が出てきていると感じた。

では、今日の会議は活動報告に対し、皆で様々な意見等を出し合った  
ことでまとめたい。

(5) その他

特になし

(6) 閉 会